

令和5年度

おおた みんなのつどいプロジェクト
事業報告書



はねぴよん
©大田区



オーちゃん



SDGs
未来都市
大田区



大田区は、SDGs 未来都市自治体 SDGs モデル事業にふさわしい、持続可能な取り組みを行っています。

令和5年度のおおた みんなのつどいプロジェクトは、5月に障がいのある人もない人も笑顔になる地域活動の募集をスタートしました。8月からは、各障がい者福祉施設やOTA ふれあいフェスタにおいて障がい理解の啓発活動に取り組みました。

12月3日には、大田文化の森において総括イベントを開催しました。

こうした取り組みを積み重ね、地域共生社会の実現をめざしてまいります。

おおた みんなのつどいプロジェクト実行委員会



総括イベント
日時:12月3日
場所:大田文化の森
天候:晴天

1 おおた みんなのつどいプロジェクト表彰

障がいのある人もない人も笑顔になる地域活動を募集しました。

「障がいのある人もない人も笑顔になる地域活動報告書」をご覧ください。



2 おおた みんなのつどいプロジェクト

施設まつり 及び OTA ふれあいフェスタでの

障がい理解啓発活動

1 事業内容

- (1) おおた みんなのつどいプロジェクトののぼり旗を設置し、障がい理解啓発の資料を入れた特製バックを配布し啓発活動を行いました。
- (2) 障がいがある、ないにかかわらず、すべての人がお互いに認め合い、支え合い、誰もがいきいきと生きることができる社会に向けて「障がい理解の輪」から「笑顔の輪」に広がるような取り組みやエピソードを募集しました。

2 実施施設等

月日	施設名等	行事名
8月 1日	いずみえん	第 16 回 納涼祭
8月 20日	うめのき園	第 9 回 福祉のまち糀谷 夏のおまつり いきいき祭り ふれあいまつり サンタフェスタ
	しいのき園	
	アミークス東糀谷	
9月 23日	まごめ園	第 30 回 まごめ幸陽祭
9月 30日	久が原福祉園	第 31 回 きらら祭
10月 15日	南六郷福祉園	第 36 回 鈴まつり
	くすのき園	
10月 22日	上池台障害者福祉会館	第 42 回 虹まつり
11月 3日	障がい者総合サポートセンター	新井宿地区 福祉と文化と医療のまちスペシャルデー
	新井宿福祉園	
11月4.5日	大田区社会福祉協議会ブース	OTA ふれあいフェスタ
11月 11日	のぞみ園	第 23 回 いつつのわ幸陽祭
11月 12日	わかばの家	第 29 回 こどもまつり
11月 25日	池上福祉園	第 22 回 いけいけハートフルフェスタ

3 応募いただいた取り組み等の紹介(応募件数 16 件)

NO1

私はことばがはっきり伝わるように
はっきり
ゆっくり
おおきな声で
なるべくわかりやすく
話をするようにしています。 H さん



NO2

バスに乗った時の事です。
運転手さんに大きな声で「よろしくお願ひします。」とひって、中学生くらの女の子が乗ってきました。
バスが走り出すと、女の子が大きな声で歌ひ始めたのです。私の他に5人位の乗客がいましたが、皆黙って、中にはリズムを取りながら女の子の歌を聴いていました。
歌ひ終わった時にひとりの男性が「上手だったねエ、でもバスは色んな人が乗っているから、これからはもう少し小さな声で歌おうね」と声をかけていました。
彼女は運転手さんに大きな声で「ありがとうございました」と言ひて降りていきました。
わずか 15 分程の時間でしたが、何だかとてもホッコリした良い時間でした。 T さん

NO3

大田区在住 30 代2児の母です。
私は障がい学生が多い大学の出身で、在学中は障がい学生支援活動に取り組んでいました。
日常の活動はもちろん、活動を通じて仲よくなり、車いすユーザーの友人とお泊り会をしたり、視覚障がいの友人と旅に出たり、聴覚障がいの友人と筆談で盛り上がり…何気ない日々が純粹に楽しく、今振り返ると貴重な毎日でした。そして、自分は障がいに理解のある人間だと信じ切っていました。
しかし、子育て真っ最中の今、3歳児の質問の回答に困る私があります。
ウクライナの被災者を見て「どうしてあの子は足がないの？」お散歩途中に出会う車いすユーザーに対して「どうしてベビーカーに乗るの？」
何がベストの回答か私には分かりません。ただ、その純粹無垢の質問から目を背けず、向き合う大人でありたいと思っています。
今回、福祉のまち糎谷の夏祭りで、いろいろな施設にお邪魔する機会を設けていただきこどもに見せてあげることができて、非常にありがたかったです。
いろいろな人がいること。みんなあなたと同じ大事な一人なんだということを理解しながら、のびのびと成長して欲しいと願っています。 K さん

NO4

私が障がいについて初めて理解したのは保育園の頃です。他のクラスに耳に障がいのある、いわゆる聴覚障がいのある男の子がいて、先生達がよく配慮していたのを覚えています。私が障がいがある人と関わりをもったのも、それが初めてだと思います。また、その男の子には、普通の音が大きく聞こえてしまう症状があり、例えば喋る声を小さくしたり細かな配慮をしていました。私がこの時から心がけていることが1つだけあって、「障がいのある人について深入りしない。」という事です。例えば町で困っている人がいたら助けはするけど「なんで障がいをもっているの。」などのデリケートな質問はしないというような意味で、目には見えない事も見える事もその人にしか分からない事は誰でもたくさんあるから、障がい者との間の差別をなくすためにもこの事を大切に心がけています。

Mさん



NO5

街中で歩いている時や電車のホームで待っている時、視覚障がいの方を見かけることがあります。

しかし、恥ずかしくて声をかけられないため、視覚障がいの方の歩く先に障害物はないか、危険はないかを見るようにしています。

直接声をかけなくても、日頃から点字ブロックの上にたたないことや、歩きスマホをしないこともとても大切だと思っています。

また、困っている人がいたら、勇気を持って声をかけられたらと思います。

Kさん

NO6

視覚に障がいのある方が、道や駅などでお困りのご様子の方の時、“何かお手伝いしましょうか？”のお声がけと、お手伝いをお願いされた時は、ご本人に“どのようにお手伝いすればいいですか？”とお聞きするように心がけています。

Iさん

NO7

私は理学療法士として、障がいのある方に対して歩行訓練等のリハビリを行っています。その中で特に意識していることは、障がいのある方への接し方です。

なかなか、上手くコミュニケーションが取れない方もおり、私は表情や傾聴しながら関係性を築いていく事を意識しております。一つの例として、緊張してしまい、私と上手くお話しができない一人の女性がいました。彼女と関係性を築いていく事は、数日、数か月では難しく、年単位ではありますが、今では彼女の方から声をかけてくださる程です。

私は、この経験を活かし今後も障がいのある方と関係性を築いていけるように努力いたします。全ての皆様が生涯幸福でありますように。

Kさん

NO8

わたしは、区立図書館の、りんごの棚を見に行き、本を借りてみました。LLブックや、文字の大きい本をよくすることで障がいのある人の不便さがわかります。だからもっとリンゴの棚がひろがってほしいと思います。

I さん

- ♥ りんごの棚
特別な配慮が必要な人のための本が配置されている本棚
- ♥ LLブック
イラスト・写真が多く、視覚的に分かりやすい本



NO9

5歳の娘が、まちなかで身体障がいのある方を見かけると、じっと見つめて不思議そうな顔をするので、指をさしたり、相手が傷つくような言葉をかけてしまわないよう、その都度簡単に説明しています。

白杖のことや、簡単な手話も教えたことがありましたが、すぐ忘れるだろうと思っていました。以前、まちなかで聴覚障がいがある方に出会った時に、娘も手の仕草を見て気づき、その場を離れてから私に「あの人が聞こえない人だね」と言うことがありました。

覚えていたことを嬉しく思うと同時に、ひとりひとりが様々な障がいを理解し、身近な人の障がい理解を少しでもサポートできれば、障がい理解は確実に広がっていくのだと実感しました。

M さん

NO10

私は、精神障がいのある方と一緒に、喫茶店で働いています。

仕事を始めたばかりの頃は、わからないことを聴くと、皆さんとても親切に教えてくださいました。

個々の特性や能力は様々ですが、自分で目標を決めて、一生懸命仕事に取り組んでいます。苦手なこともあります。イラストを描くのが上手な方や料理が得意な方、英語が話せる方など、長所もそれぞれあります。

障がいのある方も、自分の好きなことや得意なことを活かして仕事をする場があると、やりがいを持ち、いきいきと暮らしていけるのだと、日々感じています。

K さん

NO11

施設で働いています。

職員が退勤時に、笑顔で少し大きな声で「車に気をつけるんだよ」と見つめてくれる利用者さんがいます。

一言で、1日の疲れが取れ、また、明日からのパワーをもらっています。

K さん



©大田区

NO12

「ゴミはこちらです。ご案内します。」と、にこやかに誘導してもらえて嬉しかったです。福祉園のお祭りで昼食をいただいた後のことです。満面の笑みでゴミ箱まで案内して頂き、見習わないとなと思いました。

障がいのあるないに関わらずやはり笑顔の表情がいちばんですよね。障がいの方の笑顔はウソがない方が多いように感じています。

福祉園のお迎えのバスポイントまでお送りする支援もしているのですが、何とも言えないかわいい笑顔で手を振ってくれることもあります。その福祉園バスに乗車されてる他の方もガッツポーズやWピースしてもらえることもあります。心が「ぽわっ」と温かくなります。

居宅介助でやさしさにふれることもあります。帰り際の上着を着る時に利用者さんが襟を直してくれたり、リュックが空いてたら、閉めてくれたり、障がいの方の支援の仕事に出会えて本当によかったです。癒されることも多いこの仕事がとても好きです。

Eさん

NO13

身体障がいと重度知的障がいがある息子は、独特な歩き方と時折発する大きな声。

2人で歩いていると周りの人にびっくりされたり、怖がられたり、避けられてしまうことも珍しくありません。近所の小学生の女の子もそんな一人でした。そして、月日が流れ、中学生になった彼女と久しぶりに会った時、初めて私たち親子に『こんにちは』と声を掛けてくれた日のことはとても嬉しいこととして今でも胸に残っています。

私たちのような親子が、日々の暮らしを通じて皆さんの身近な存在になっていけたらいいなど、いつも願っています。

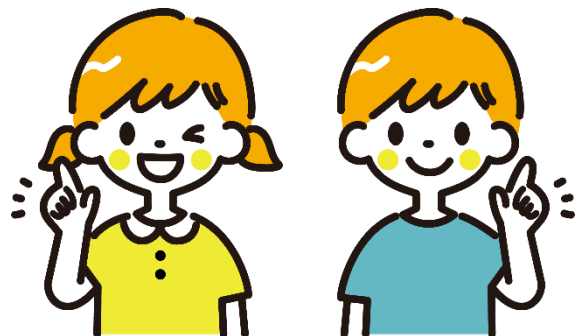
Hさん

NO14

友達にお願いされ、上池台障害者福祉会館の虹まつりのフリーマーケットに出品する手作りバックを2つ寄付しました。

虹まつりの後、友達から笑顔の写真が届きました。嬉しいと思ったと同時に、こうした繋がりが、人を繋げ、障がい理解の第一歩かもと思ったところです。

Fさん



NO15

私が視覚障がい者さんのガイドヘルパーをしているときの事です。
 その方に付き添い、コンビニで買い物をしていたら、突然倒れかかってきたのです。そこで
 買い物をしていた女性客は看護師だと言い、寄ってきてくれ、男性客は「頭を支えているか
 ら」と、私が事業所へ電話する時間を作ってくれました。
 店の従業員が救急車を呼んでくれ、その場に居合わせた全員の協力のもと、病院へ搬送
 することができました。視覚障がい者さんをみんなで支えたエピソードです。

Yさん

NO16

東急池上線の電車で小学2年生の娘と
 乗っていたときの事です。
 障がいのある方が乗車された際に、子
 どもがスッと席を立てて譲っていました。
 相手の方も「いいよ、すぐだから」と子
 どもと譲り合いがあり、にっこり笑顔にな
 りました。

Yさん



4 施設まつりの様子



はねぴよんが
 遊びに来てくれ
 ました。





みなさん
次回は、あそびに
きてくださいね。



©大田区



イラスト：
くすのき園
進藤伸哉さん

3 おおた みんなのつどいプロジェクト 総括イベント 令和5年12月3日(日)大田文化の森

1 おおた みんなのつどいプロジェクト 令和5年度の活動報告

「おおた みんなのつどいプロジェクト 令和5年度の活動」をご覧ください。

2 表彰式

□ 大田区障害者関係区長表彰

<自立生活者>

自立生活によく努められた3名の方

<自立支援功労者>

障がいのある方の自立支援活動に尽くされた5名の方

計8名が表彰されました。

□ おおた みんなのつどいプロジェクト表彰

障がいのある人もない人も笑顔になる地域活動された13団体等を表彰させていただきました。

□ 大田区長挨拶



本日は、「障害者関係区長表彰」、「おおた みんなのつどいプロジェクト表彰」を受賞された皆様、誠におめでとうございます。

12月3日から9日は、障害者週間です。大田区では、障がい理解の促進及び共生社会の実現を目的に、本日のイベントが開催されております。今年は、障がい者施設でのおまつりも4年ぶりに開催され、私もたくさんの施設からご招待いただき、皆様からたくさんの笑顔をいただきました。

「障害者関係区長表彰」では、自立した生活を継続し、意欲を持って仕事に取り組み、社会の中でしっかりと役割を果たし、他の障がいのある方の模範となっている方々を「自立生活者」として表彰させていただきました。皆様の生き方が、障がいのあるなしにかかわらず、周囲の人々に希望を与え、大きな勇気付けとなっています。また、障がいのある方の自立支援活動にご尽力くださったご功績があり、障害者団体等で活躍くださっている方々を「自立支援功労者」として、表彰させていただきました。今後も活動を継続していただき、障がいのある、なしに関わらず、すべての人々が社会参加できる社会の実現のためにご尽力、ご協力いただけましたら幸いです。おおた みんなのつどいプロジェクト表彰の「障がいがある人もない人も笑顔になる地域活動」は、共生社会実現への第一歩であり、私がめざしております「笑顔とあたたかさあふれる大田区政」の礎でもあると考えています。

結びとなりますが、本日の表彰が、皆様方の今後への取組みへの一助になることを願いますとともに、益々のご活躍とご健勝を心より祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

大田区長 鈴木 晶雅



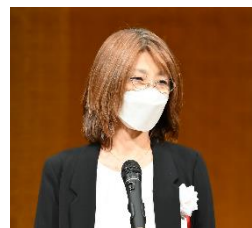
□ 実行委員会会長挨拶

「おおた みんなのつどいプロジェクト」は、令和2年度まで実施してまいりました「大田区しょうがい者日のつどい」を、令和3年度に開催形式等を検討し、令和4年度再スタートして、今年度で2回目の開催となります。

「障がいのある人もない人も笑顔になる地域活動」を実践して下さっている団体を表彰する、「おおた みんなのつどいプロジェクト表彰」は、前年を上回る応募をいただきました。本日、大田区長表彰に続き、実行委員会で表彰をさせていただきました。

また、今年度は、多くの障がい者施設でおまつりが再開され、利用者の笑顔があふれました。「おおた みんなのつどいプロジェクト」が多くの皆さんに笑顔を届けてくれることを願って私の挨拶とさせていただきます。

おおた みんなのつどいプロジェクト実行委員会会長 荒木 千恵美



©大田区

受賞者の皆様おめでとうございます。
おおた みんなのつどいプロジェクト総括イベントの司会進行を昨年に引き続き担当させていただきました。皆様の頑張りや取り組みを知ることができ、笑顔になることができました。

このイベントに携われたこと、新しい出会いがあったことに感謝しています。

総括イベント司会進行
フリーアナウンサー 菊池 良子



初めて、おおた みんなのつどいプロジェクト総括イベントの撮影に参加させていただきました。

受賞者の皆様おめでとうございます。
笑顔でシャッターを切り、感動で映像がかすんだ場面もありました。大豆のケーキもおいしくいただきました。

素敵な方々と音楽の
出会いに感謝しています。

フリーカメラマン
高田 真希子



©大田区

3 地域共生コンサート

「こどもの城合唱団」によるコンサートを開催しました。

大田区イメージソング「笑顔このまちから」をはじめ、たくさんの曲を披露いただきました。

また、曲と曲の間には、素敵なメッセージをいただき、手話やダンスもある素晴らしいコンサートとなりました。

会場は一体となり、感動のあまり涙する方もいらっしゃいました。これからも、多くの方に感動をつなげていってください。



©大田区

こどもの城合唱団の紹介

こどもの城合唱団は、1985年の4月、同年11月の国立児童総合センター「こどもの城」のオープンに先駆けて結成された合唱団です。

2015年の「こどもの城」閉館後も、3歳から79歳までの世代や性別、国籍や障がいの有無を超えた多様性のある約250名が在籍し、音楽を通じたインクルーシブ活動を元気に続けています。

2001年と2015年には、そうした活動が評価され、児童文化財として「児童福祉文化賞」を受賞しました。また、2021年に行われた「2020東京パラリンピック閉会式」では国歌斉唱を務めました。

様々な枠を越えた“ちがうみんな”が集まった合唱団は、音楽を通し、全国の子どもたちとの交流活動、また病院や老人ホームなどへの慰問活動、多くの施設でのワークショップ活動など、色々な体験を重ねながら事業を展開しています。



おおむすび縁市場(販売会)の様子



お気に入りの商品は
みつけられましたか



撮影:高田 真希子



令和6年1月

おおた みんなのつどいプロジェクト実行委員会

事務局 大田区福祉部障害福祉課内

電話番号 03-5744-1253

ファクシミリ 03-5744-1555



©大田区